

令和6年度 第3回湖南省生涯学習審議会 会議録

日時 令和7年(2025年)3月11日(火)

午後7時～午後8時

場所 石部まちづくりセンター 中会議室1

出席者 7人

欠席者 5人

1 開会

(1) 会議の成立

委員の過半数出席のため成立

(2) 開会あいさつ

教育長：

みなさま、こんばんは。松浦教育長の後を引き継ぎ、1月1日付で教育長を拝命いたしました法山由紀子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。市長が掲げている「市民笑顔率世界一！」を受けて、湖南省の未来を担う湖南っ子のため、この笑顔のために、尽力して参りたいと思っています。

さて、湖南省では教育方針に掲げる「楽しくて力のつく湖南省教育」を目指し、教育施策を進めております。昨今、社会の急速な変化に伴い、求められる学びの形も多様化しております。市民が社会や地域の課題についての学びを深め、その課題の実現のために力を発揮し、地域社会における担い手になることが求められています。本日は奇しくもと申しますか、東日本大震災から14年を迎えることとなりました。市庁舎でも、来庁者のみなさま、職員とともに午後2時46分に黙とうを捧げ、哀悼の意を表したところでございます。大きな震災が起こる度に社会教育や生涯学習施策の重要性を再認識いたします。なぜかと言いますと「人づくり、つながりづくり、地域づくり」こそが社会教育の肝であるからです。「人づくり、つながりづくり、地域づくり」には大きな可能性が秘められていると感じておりますので、このことについて、みなさんとますます推進して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 報告事項

○湖南省人権教育研究大会(3/8)について

委員：

今までは講師を呼んでお話をしていただく形でしたが、20 回目にして初めて映画を上映しました。みなさんもよくご存じの島崎藤村の『破戒』という作品です。私は受付にいましたが、今年は民生委員や区長の方以外にチラシを見てこられた方が多くいらっしゃいました。俳優の方の魅力なのかなと思いますが、今までも有名な講師の方を呼んできましたが、大きな節目の年にみなさんに改めて人権について考えてもらいたいということで映画を上映することに決まりました。

この映画は、信州の被差別部落に生まれ育った青年が、小学校の教師になりましたが、その故郷を離れる前に父から「一切、出自のことやどこに住んでいたかを言ってはいけない」と言われて送り出されます。熱心な先生でしたが、次第に出自が明らかになるといろいろな人の思いによって騒動が起こります。その時に、主人公「瀬川丑松」の友達が最初は被差別部落の出身ということを良く思っていなかったのですが、主人公が他者から攻撃されるようになったときに、出自については問題ではなく、丑松自身のことを知っていると彼を応援しました。丑松は最後に東京に行くとき、見送りに来た子ども達に、東京でも自分の出自について、ここでの生活と同じように教育を学んでいきたいと言いました。ハッピーエンドとはいわないですが、何人かの理解のある人の思いが最後にあふれ出た良い作品だと思いました。

関連として、文化ホールのトイレが綺麗になっていたのが非常にありがたいと思いました。このように綺麗になるとコンサートでも見に行きかという気持ちになると思いました。

○第3期湖南省教育振興基本計画について

事務局：

資料1をご覧ください。教育振興計画とは市が目指す教育の方向性を示し、具体的な施策を定める教育の大本となる計画です。湖南省では、市の総合計画との整合性を図りつつ、令和2年4月に「第2期湖南省教育振興基本計画」を策定し、各種教育施策を進めてきました。この計画の期間が令和6年度に終了することから、令和7年度から令和11年度の5年間の計画期間とした「第3期」の計画の策定に向けて取り組んできました。現行の計画と同様に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく教育大綱と教育基本法に基づく教育振興基本計画を一体的に策定し、教育振興プランとするものです。

本市教育の目指す姿は、第2期計画のまま受け継ぎ2ページのとおりに「学校・家庭・地域が連携し、それぞれが責任を持つ教育の創造～子どもの育つ力を信じ、夢と志を育て未来を拓く「生きる力」の育成」です。この計画では、3ページの基本的方向に基づき教育施策を展開します。政策と具体施策は、4ページ以降に記載のとおりです。

本計画は既にパブリックコメントを受けまして、現在、その結果を踏まえた最終調整を進めています。議会への議決を経て正式に策定する予定です。なお、この概要版は計画の基本的な内容を示したものであり、計画の全文は来年度の審議会において配布する予定ですので、現状についてご報告させていただきました。

3 情報交換

「地域住民が主体となってコミュニティを支える社会教育」について

- ・ボランティア登録について
- ・若者の参画について
- ・その他

事務局：

今日の情報交換のテーマについてご説明いたします。

資料2をご覧ください。2月12日から2月18日にかけて市内の7つのまちづくりセンターを訪問し、各センターの生涯学習に関するニーズ等についてヒアリングをさせていただきました。講師の紹介をしてほしいというニーズが多くありました。

また、市の方針にもある「市民全員で取り組むまちづくりを進めるため、若者、アクティブシニア、障がいのある方、外国籍の人、文化やスポーツの関係者、研究者、クリエイター、起業人など市民人財のフル活用を行うために、多くの市民人財に積極的に協働・参画いただく登録制度として、生涯学習ボランティアを活用したいと考えています。今回は「ボランティアの担い手をどのように増やし、活性化していくか」という点に焦点を当て、特に若者の参画と地域によるつながりづくりを軸に議論を進めたいと考えております。

まず、話し合いに入る前に、皆様にはお手元の「意見記入シート」に記入をお願いしたいと思います。今日は、皆様の多様なご意見を伺いながら、実効性のある方策を見出していきたいと考えています。今後生涯学習ボランティアの活性化を進めていくにあたり、委員の皆様の知見を活かしながら市としても支援策を検討していきます。

どうぞ、活発なご議論とご協力をお願いいたします。

会長：

地域住民が主体となったコミュニティというのが生涯学習ボランティアに関わっていて、現状どうなっているかというのが資料2です。意外だったのが、まちづくりセンターでの講演会などの実施率が低い。なので、生涯学習ボランティア制度を活用してもらって、文化的な活動を進めてもらおうということだと思います。5分程度シートを記入していただいて、順番に発表をお願いします。

委員：

若者の参画について、中学生くらいが興味のあることを聞くと、高校生になったらアルバイトをしたいとよく聞きます。何をするにもお金が必要なので、お金がないとよく言っています。なので、社会経験になるボランティアがいいのではないかと思います。例えば、コンビニとか工場とかショッピングモールでレジ打ちなどの社会経験をさせるなど、全然ボランティアではないのですが…興味を持っている子どもたちに社会とつながりのあるボランティアをするにはどうしたらいいのでしょうかね。まとまりがないのですが、そういうふうに思いました。

委員：

私は社会福祉協議会のボランティアを30年ほど続けています。その中で、特に望まれ

ているのが防災に関する内容、子どもを育むかたちでのボランティアです。

また、水戸だと外国の方が多くいるなどの特徴があるように、今後、まちづくりセンターが進んでいこうとしている方向性があるって、そこに生涯学習ボランティアがどのようなかたちで入っていくのか、まちづくりセンターとの協働が必要なのかなと思います。

委員：

生涯学習ボランティアの名前は知りませんでした。でも、以前に市民講座をまとめられた広報を見たことがあって、他市ではやっていたけれど湖南省はやっていなかったの、良いなと思っていました。

私は保育士なので、お母さん向けにアンガーマネジメントのお話をしたこともありまし、ほかの団体では、赤ちゃんのケアとか、中学校の依頼を受けて読み聞かせについてお話したこともあります。自分にとっても良い経験だったので、自身の得意分野を活かして何かをするのはとても良いなと思います。今はマネー講座が人気があるのかなと思います。

若者の参画については、小中連携というかたちで、各単位で来てもらっていることがあるので、1人では参加しにくい場合でも、部活単位とかだと来てもらいやすいのかなと思いました。

あと、高校生までは知っていても、大学生になると地元にいるのかわからなくなります。大学生とのつながりが持てるとどんどん活躍してもらえるのになと思います。先ほど委員がおっしゃったように、地域での経験も、興味を持ってもらえて、働く経験ができれば良いなと思いました。

委員：

生涯学習ボランティアについて、学校に関わるものと地域活動に関わるもので種類を分けると良いのではと考えました。学校に関わるボランティアとしては、例えば総合学習、ふるさと学習のゲストティーチャーであるとか、外国籍の子どもの指導、学校内外の環境整備などをしてくれる人がいれば良いなと思いました。地域活動では、文化活動の指導、例えば音楽や芸術、料理などを教えてくれたりとか、サークル活動や地域の行事運営、子育てに関してサポートして下さる人などのボランティアがいたら良いなと思いました。

若者の参画については、SNSでの動画配信、インスタグラムやFacebookなどはすごく効果的だと思います。それから学校や企業と連携した体験プログラムも有効だと思います。また、学校の授業やまちづくりセンターの取り組みと一緒に関わっていくことも大事だと思っています。

さらに、つながりづくりについては、湖南省は地域にひらいた学校で考えているので、コミュニティスクールと地域学校協働活動の取り組みを進めていくことが大事だと思います。

それからその他になりますが、ボランティアのリストの作成、人材バンクのようなものを作って、啓発していくのもすごく良いのかなと思ったのと、他市町の良い事例を真似していくと良いのかなと思いました。

委員：

生涯学習ボランティアの制度については知らなかったです。制度に期待することとして、まちづくりセンターだけではなくて、湖南市の文化を継承してもらえたらと思います。

若者の参画について、学校と企業が連携していくことは大事だと思います。高校を卒業すると市外に行く子どもが多いので、中学生くらいまでを対象に、わかりやすい興味を持ってもらえるようなプログラムを作る、チラシを作ることが良いのかなと思います。

また、身近な方々へ声をかけて、田植えの手伝いなどもボランティアのひとつだと思います。

委員：

もともと生涯学習ボランティアの制度を作った成り立ちや目的に立ち返る必要があるのかなと思います。この制度の根幹にある精神みなたいのものが抜け落ちてしまったら、本来やりたかった思いが受け継がれなくなってしまうので、ダメなのかなと思います。

子どもは就学前くらいから大人がいろいろなところに連れていき、触れあったり、大人と一緒に取り組む体験を常にできる状況を作らないといけない、そのためには保護者の同意や認識は不可欠になるので、保護者への PR は非常に大切だと思います。保護者が時間がないなかでも興味を持ってもらって、子どもが体験しながら育っていく中で、中学生くらいで自分から手伝うよと言えるような状況を自然に作ってあげることが必要なのかなと思います。

参画については、SNS とか動画を使っていただくのは良いと思います。若者には良いのかなと思う反面、人のつながりづくりを重視しているのであれば、まちづくりセンターをフルに活用できるようなシステム作りからしていけないのかなと感じました。そこを円滑に進めていくためには、既存の団体とのマッチングについて、アイデアを出して変化を与えるような発言や提案をできるような職員の育成も必要になってくると思います。団体からの意見も拾えてない部分もあると思うのですが、その提案を拾っていくように変えていけるかどうかで、政策能力や市の形成能力が決まってくると思うので、柔軟な考えや国の補助金などを理解して活用するための知識を有していくのも必要なことだと思います。行政の職員だけではなく、団体の役員なども含めて一緒に考えていこうという体制になるように全体的な機運を高めていくことが必要かなと思いました。

会長：

私はボランティアのイメージはそんなに難しいものではないと思います。よく滋賀県民はボランティアが得意ではないと言われますけども、実は根幹ではそうではないと思います。滋賀には祭りがたくさんありますが、基本的に祭りはボランティアです。おそらく最も古くからやっているボランティアというのが、みなさんが抵抗なく参加している祭りなのだろうと考えていて、委員のみなさんがおっしゃった意見はもっともだなというふうに聞いていました。ボランティアは講演会の講師だけをいうのではなく、もっと身近なところにたくさんあるということをおっしゃっていたのかなと感じました。

やはり大切なのは、委員さんがおっしゃったようになぜこの制度を始めたかを一度振り返ることだと思います。また、誤解されがちですが、ボランティアって費用をいただかないことではないです。資料4を見ていただくと、一番下の方に「指導に要する経費」というところがあります。「登録者による指導に必要な交通費、指導料、教材費等の経費については、依頼者側の負担とし…」というのがきちんと明記されています。なので、言い方が悪いかもしれませんがただ働きではない、必要不可欠ものはきちんと要求できることを踏まえたうえで、相手のニーズに対応して、自身ができることをするということが大切なのだらうと思います。

特に思っていることは、祭りに参加する子ども達はみんな楽しそうです。なので、楽しく参加できるボランティアっていうのが実は身の回りにあるんだよということを社会教育の分野から知っていただくことも重要な要素だと思います。

今度は、委員さんのご意見について、これについて聞いてみたいということはあるでしょうか。私からひとついいでしょうか。最初に発言いただいたコンビニで働くこともある種の社会経験であるという内容について、そういったことから学ぶ要素があるのではないかという意味でしょうか。

委員：

近所のコンビニに行くと、卒業生によく会います。地域の人がよく働いていて、コンビニって地域に密着しているのです。一方、ちょっと社会に馴染みにくい青年たちが長年アルバイトしてたりします。コンビニのオーナーやマネージャーが特別な雇用の枠を設けてあげていたりします。社会性が見つけられなくて引きこもりがちな子どもがいて、そういう子どももネット社会にいて必要なものを買いたいので、お金を稼ぎたいという思いがあります。そういう子ども達がコンビニで働きながらいろいろなことを得られる、キャリア教育になっているなと思います。

余談ですが、お店屋さんごっこの延長のようなイベントが3月に水口のアルプラザで開催されるそうです。私の住んでいる下田は商人の町なので、自分で稼ぎたいという気持ちを持った子どもがいて、そういった興味を満たしてあげられる素敵な企画だと思います。

会長：

歴史講座や市民講座が激減している印象があります。

委員：

講座のやり方を考えるときが来ていると思います。地域に根差した魅力を市民が配信できるコンテンツを作るなど。一方で、コロナで直接の対面的なつながりがすごく減ってしまいました。これは個人の力で再生できるものではないので、公的な力が必要です。場所やコンテンツが必要で、活発な人同士の対面的な関わりを意識的につくっていく取り組みをしていかないといけないと思います。

生涯学習ボランティア制度についても、費用はゼロじゃなくていいよと言っても、無料

で提供するものというようなイメージを持っている方も多いので、小学生くらいの小さい頃からそうじゃないよと教えていく必要があると思います。

委員：

ボランティアは成果がないイメージですが、ペットボトル1本だけでも嬉しいし、子どもは飴ひとつでもすごくやる気をもって動いてくれます。

委員：

ボランティアの方と職員がコミュニケーションや意見交換を行い、意思疎通が図れて関係性を作っていくということを積極的にしていって、関係性ができくると地域の力に戻っていくかなと思います。ただ、それだけではなく、一定できるようになりたいと思っている方にチャンスやきっかけを与えられるようにしていかないとプラスアルファが生まれていかないと思います。

委員：

社会福祉協議会では、11月にボランティアまつり、既存のボランティアグループが94団体あり、数年前から中学生もしてくれています。他校との交流もあり、中学生も楽しんでます。グループごとに他のボランティアとのつながりができ、それがたくさんのつながりになります。まず、「楽しんでしない」とさせられている感じになってしまうのは違うと思います。

委員：

ボランティアはする人も楽しまないと。提供してもらう人だけではなく、提供する人も楽しんですることが大切だと思います。

会長：

楽しくないと長続きしない。理想を追うべきだと思ったりもします。こういった輪がたくさんできればいいですね。たくさんのいろいろな意見ありがとうございました。

4 今後の事業予定

資料5のとおり

5 その他

特になし

6 閉会あいさつ

部長：

みなさんお疲れ様でございました。今回、3回目の生涯学習審議会ということで、本日も活発なご意見をいただきまして、特に地域住民が主体となってコミュニティを支える

社会教育が本筋のテーマということで、本日はボランティアについて、先ほどからご意見が出ていますようにボランティアというのは、させれている、こうしなければならないではなく、地域のため人のために楽しいから自分からやるんやという気持ちでするのが、一人ずつ人数が増えていくための方法だと思います。

今年1年いろいろご意見いただきまして、みなさまの任期といたしましては、もう1年引き続きお願いすることになります。全3回の審議会のなかでいただいたご意見を次年度は社会教育のあり方について深めていって、湖南省が目指すところをしっかりと示しながら、皆さまからご協力をいただいて進めて参りたいと思っております。